

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

	令和8年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン	－ 1 －
重点項目	学習活動	
重点課題	探究的・協働的な学びを実現する授業の推進、改善	
現 状	互見授業や授業アンケートを参考にしながら授業改善に取り組んでおり、タブレット等の ICT 機器を活用した授業は一定程度定着してきている。一方で、生徒は真面目に学習に取り組む姿勢が見られるものの、昨年度までの授業アンケートの結果からは、自ら考え、発言したり、他者と協働して学びを深めたりする積極的な学習活動の面に課題が見られる。生徒がより主体的・意欲的に学習に取り組むことができるよう、探究的・協働的な学びを意識したさらなる授業改善が必要である。	
達成目標	探究的な学びを取り入れた授業の効果を明らかにするため、5月と1月に生徒アンケートを実施し、生徒の学習への関わり方の変化を把握する。その結果、「自ら考え、他者と協働しながら学習に取り組んでいる」と回答する生徒の割合が、5月と比べて1月において10%以上増加すること。	
方 策	・生徒が自ら問いや課題を設定する探究的な学習場面を意図的に設ける。 ・情報収集・整理・分析・表現の探究プロセスを意識した学習活動を行う。 ・意見交換や協働を通して学びを深める対話的な学習を充実させる。 ・生徒アンケートを実施し、生徒の意識や学習への関わり方の変容を把握する。 ・互見授業や教科部会で成果と課題を共有し、授業改善につなげる。	

	令和8年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン	－ 2 －
重点項目	学校生活	
重点課題	規範意識の高揚と自己指導能力の育成	
現 状	素直で真面目な生徒が多く、頭髪や服装などにおいて、県内で整っている学校の一つだと感じている。しかしながら、自ら考え、自主的に活動することが苦手で、何事にも何となく取り組んでいる様子が伺える。 また、スマートフォンの使用については、何年も継続して指導をしているが、時代の流れとともに、生活に欠かせないものとなり、日常的に使用することが当たり前になっているため、自分自身でスマートフォンの使用を制限することができず、校内でも校則に違反して使用することがよく見られる。	
達成目標	規範意識を高めるために、スマートフォンおよびタブレット等の端末を学習以外で使用することを制限する目標を自分自身で立て、それを実行する生徒の割合を8割以上とする。	
方 策	・行事等も含めた学校生活の様々な場面で、校則・交通規則、時間を守る、スマートフォン等の使用を制限するなど、自分自身で目標を立て、実行させる。 ・校風委員会、生徒会を中心に、自然に規範意識を持てるような校風をつくる。 ・校風委員会が中心となって、規範意識等（特にスマートフォン）について考える機会を設ける。 ・外部講師を招いて、「スマートフォン」の使用について考える機会を設ける。	

	令和8年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 3 －
重点項目	進路支援		
重点課題	(1) 学習習慣の習得および定着 (2) 早期の進路目標の設定		
現 状	本校の進路状況は、毎年 20 名以上の国公立大学合格者を輩出する一方で、短期大学や専門学校への進学者もあり、進路は多岐にわたる。また、学習習慣が確立されていないまま入学する生徒の割合が約 20%であり、学年進行に伴い家庭学習を行わない生徒は増加する傾向にあり、受験指導上の課題となっている。学習習慣の習得・定着のため学習記録の作成を指導しているが、昨年度の平均記録日数は学年間に大きな差が見られ、新入生を含む全校生徒への指導の必要性を示唆している。低学年の進路意識に着目すると、将来の職業や大学で学びたい分野の研究を主体的に調べている生徒の割合は、2年生、3年生ともに全国平均を下回る結果となっている。これらの状況を踏まえ、本校においては学習習慣の確立、早期からの進路意識の高揚に向けた全校的な取り組みが喫緊の課題であると言える。		
達成目標	(1) 2学期末の考查期間において、学習記録をつける生徒の割合 80%以上。	(2) 3学期までに 1年生：将来興味のある職業や学問分野が決定している生徒の割合 70%以上。 2年生：志望校または志望学部・学科が決定している生徒の割合 70%以上。	
方 策	①進路行事による進路意識と学習意欲の高揚 ・進路講話や職業研究会、学部学科研究会および総合的な探究の時間における進路探究などを通して、生徒の進路意識を高める。 ・考查1週間前から最終日までを学習記録必須期間として全校で取り組み、その記録を学習指導に活用して学習意欲向上を図る。 ②進路指導部定例会の活性化 ・進路指導部と学年主任が定例会において情報交換・共有を行うことで、各学年の現状に基づいた問題点を明確化し、具体的な対策を協議・実行する。 ③進路指導委員会の活用 ・進路指導委員会での校外模試の分析を通じて進路指導の課題を明らかにし、その解決のため、学校全体で共通理解に基づいた対策を講じる。		

	令和 8 年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 4 －
重点項目	特別活動		
重点課題	地域の施設訪問やイベントなどへのボランティア活動に参加して、様々な世代や立場の方と交流し、人間的な成長を図るとともに、地域社会の一員としての自覚を持たせる。		
現 状	本校生徒は、多くの地域の方々に支えられて学習活動や部活動を行っている。特に福祉コースでは、地域の方の理解のもと、社会福祉施設の見学や実習等の体験的な学びを行っている。部活動では、吹奏楽部や郷土芸能部が、地域からの依頼を受けて、演技発表や演奏をする機会が多い。 また福祉コースに限らず、地域での学びの機会があり、ボランティアへの参加を希望する生徒が多い。昨年は、活動参加人数は 149 名(全校に対する割合 35.1%)、延べ 216 名がボランティア活動に参加した。		
達成目標	(1) ボランティア参加の延べ人数が、昨年以上を上回る。	(2) 全校生徒の 1/3 の生徒が、ボランティア活動に参加する。	
方 策	・ グーグルクラスルームを利用し、多くの情報を生徒に提供する。 ・ グーグルフォームを活用し、ボランティア希望者の集約、配分を行う。 ・ 福祉コース以外の生徒にも、ボランティア活動への参加を広く呼びかける。		

	令和 8 年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 5 －
重点項目	その他		
重点課題	P T A 研修会への積極的参加		
現 状	本校 P T A（井泉会）は、令和 5 年までの地区別役員選出を見直し、生徒の出身地域の多様化に対応するとともに、活動内容に対して過剰だった役員数も適正化を目指し変更をしてきた。現在は「保護者全員が参加しやすく、負担を分担できる運営」を目指し、新体制で 3 年目の取り組みを進めている。一方で、総会や研修会の参加率の低下、保護者間の交流不足といった課題もあり、活動の停滞が懸念されている。		
達成目標	(1) P T A 主催の研修会への参加者数を昨年度比 20% 増とする。	(2) 研修会への参加者について「会員同士の交流があった」と回答した割合を 80% 以上とする。	
方 策	・ 安心安全メール・学年通信、学校ホームページ、役員間のソーシャルネットワークの利用、ポスターなど複数媒体で発信する。 ・ 保護者が興味関心を抱き、交流が深まる研修内容を企画する。 ・ 参加しやすい申し込み方法や時期を設定する。		